

読売歌壇

小池 光選

「お母ちゃんみたい気がする」妹は腰のまがりし我的手をひく
下野市 川中子とよ子

【評】いくつ違いの妹さんだろうか。腰の曲がったわたしの手を引いてくれる。老いたる姉のなかにくつきり母の残像が見えてくる。なつかしい母、そして大切な姉。
路地裏の酒場通りに踏み込めば熊野古道に続くその道
守口市 小杉なんきん

【評】自由自在な発想が楽しい。路地裏の酒場を出れば、まっすぐそこから熊野古道に続く。ふらふら、よれよれに、いにしえの道を歩いてゆく。このままどこまでも行こう。
『二十四の瞳』の映画に魅せられて小豆島たずね早や六十年過ぎ
東大阪市 池田 健一

【評】木下恵介監督、高峰秀子主演の名作。舞台は小豆島。六十年の昔に訪ねて、その後作者は教育者の道を歩まれたのだろうか。
のんきなことばかり言ってるわたしです 日記
加茂市 田代 旅子

の中身を誰も知らない
雪の山さみしいほどに消えてゆき静かに春が庭に
高岡市 田中 芳子

ほのぼのと昭和思ひて我はひとり夕餉に食すたまごかけごはん
常総市 渡辺 守

春雷に起されて五時、雨の中働きに出る息子の背中
寝屋川市 本多 雅子

練習に励む少年よく会うなサッカーボール春のそよかせ
鳴門市 楠井 花乃

お国より戦死せる日と決められて三月三十日が命日
三原市 天崎 千寿

なんとなくもてあそばれていような気がしないでもないセルフレジ
大阪府 木村由里亜

栗木 京子選

終活といふ難題に取り組み母の写真を如何にせむとや
柏市 藤嶋 務

【評】家具や衣類なら手放すことができて肉親の写真や手紙などはどうするべきか、悩むばかり。少しでも残してあととは処分するとか。「難題に取り組み」に実感がこもる。
先延ばししてあるうちに返信を永久に書けない女人となりぬ
東京都 大村 森美

【評】「返信を永久に書けない女人」にはどこか典雅な風情の漂うが、じつは不精者とも言える。すぐに書けば短くて済んだ返信だったのに。同類の私には耳が痛い一首である。
川沿いの桜の花は満開なり鯉も花見をするかと児らは
香取市 斎藤 和子

【評】子どもの発想はじつに新鮮である。川の中から眺める桜はさぞかし見事なことだろう。鯉の花見に参加してみたいくなる。
年ごとに「いつの間にか」が増えていくむすめ
の老眼鏡も白髪も
町田市 永井 悦子

負けぬぞと独りつぶやく夜の道我の心は弱くて強し
さいたま市 小川 希空

信号が捌く人波見下ろして熱熱コア頼む窓際
京都市 根来美知代

空き缶はつittedただけで転がってしまつてめんと言わしてくれない
三田市 藤原栄美子

父の歳はるかに越えて越えたのはそれだけだったと気付く黄昏
東京都 影山 博

日銀の裏の通りは大行列キッチンカーやワゴン
の弁当
所沢市 杉本 葉子

絶対と言いつける言葉の不誠実儲かる効きます実現させます
東京都 白波 悠子

俵 万智選

しばらくは検索せずにへふしきゝって気持ちを抱いたまま暮らしたい
上尾市 関根 裕治

【評】なんでも簡単に検索できる時代。便利だが、せっかくの「不思議」という気持ちがある。そんなに簡単に解消されてもいいのだろうかという抵抗の気持ち。大事ななと思う。
野の卓に老夫婦めて助六の輪ゴム外せば春しづかなり
東京都 浅倉 修

【評】助六の弁当箱を止めている輪ゴムを外す音。それが、今聞こえるもとも大きな音なのだ。なんと静謐。小さな音のクロアズアツアツが効いている。
引越すと知ってつめたくなるひととやさしいままのひとがいる春
横浜市 中村 杏

【評】引越を機に、あらわになる人間関係。利害なのか、人としての付き合いなのか。ひらがな表記が、心模様を思わせる。
あいたくてジャングルジムのてっぺんで春の光を筆る放課後
宇都市 常田 瑛子

ゴミ捨てを夜の散歩と名付けたら一緒に歩いてくれそうだけど
川崎市 全 美佐

氷雨止み家並も山も茫とせり社員カード首より外す
市原市 井原 茂明

充電をする間隔が段々と短くなったスマホみたくに
大津市 竹村 哲男

ETCカードは挿入されぬまま雨が包める地元
に暮らす
大和郡山市 本田 岳

やりとげた気になっている何もかもやつてもらった歯医者その後で
東京都 無地ムジカ

昔からそして今でも十円を入れて話せる公衆電話
八王子市 鈴鹿 直之

黒瀬 珂瀾選

値引き品みなで集めてイベントはいつも遅めの子ども食堂
群馬県 金子 歩美

【評】季節の行事も時期が過ぎてから、値下がりした品を買って行こう。子ども食堂運営のための努力と現実を示す一首です。皆の笑顔のためにできることを私達も考えてみたい。
流産を告げられたあの春の日もミモザは全力でミモザだった
福岡市 桃島 由佳

【評】辛い記憶がミモザを見る度によみがえる。同時に、すべてをかけて咲き誇るミモザの姿に、生命の強さを思いもするのかもしれない。その力が作者の心を癒すことを願います。
反故にする約束多くて桜時うつ紅に暮れゆく夕べ
東京都 長田 裕子

【評】体調などのせいで約束を断ることが増えてくる。それも人間の現実です。桜に染まる季節のなかで、生の移ろいを感じるのです。
「休めない」と愚痴をこぼせば不登校だった日を思い涙ぐむ祖母
大和郡山市 大津 穂波

三枚の切手貼り足し元氣かと米寿の友は吾を気づかう
上越市 薬師寺保子

亡き妻の位牌求めし帰り道ににく増してライオン食べる
東京都 佐藤 一郎

山あいに煙のあがるピザ屋さんの店主が猪肉を乗す
岩国市 須山佳代子

この機種はアップデートが出来ません歳を理由に突き飛ばすとは
岐阜市 後藤 進

震災や戦災を語り継ぐ未来永劫アンカー
居らす
東京都 井上 寿美

プランターの土の捨て方分からぬと都会へ行つた友からメール
日南市 宮田 隆雄